

福井工業大学

後援会会報

Fukui University of Technology 2013

平成25年4月15日発行

46

福井工業大学
後援会

〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号
電話(0776)29-7864
FAX(0776)29-7891
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

2 平成24年度 学位記授与式

4 平成25年度 入学式

6 【特集】社会システム領域

1. 建築生活環境学科
2. デザイン学科
3. 経営情報学科
4. 産業ビジネス学科

10 研究室を訪ねて

12 本学に赴任して

13 インターナショナルセンター活動報告

14 がんばってます

平成24年度理事長賞受賞者

平成24年度学長賞受賞者

創成科学賞

特別奨励金

16 卒業研究展・卒業制作展

18 就職活動支援

19 クラブ紹介

馬術部

20 各クラブの主要戦績

平成24年度 体育部会

21 社会に貢献

22 平成24年度 定期総会・講演会・地区懇談会のご案内

<講演会>保護者のための就職活動セミナー

申し込みはお早めに【お申し込み期限 5月10日(金)】



平成二十四年度

学位記授与式

三月十五日午前十時から、平成二十四年度福井工業大学の学位記授与式が、早春の晴れやかな雰囲気のなか福井県知事ご名代の福井県総務部企画幹片山富士夫様はじめ多数の来賓を迎えて、金井講堂において行なわれた。

城野学長から、大学院修士課程一七人、工学部三一五人に学位記が授与された。

つづいて、城野政弘学長、金井兼理事長から次のようなお祝いとはなむけられた。

の言葉が述べられた。



学長
城野政弘

福井工業大学大学院の平成二十四年度
学位記授与式を挙行するに当たり、年
度末の大変お忙しい中、ご臨席いただ
きましたご来賓各位に厚く御礼申し上
げます。

先ず始めに、ただいま福井工業大学
大学院から博士（工学）の学位を授与さ
れた本学機械工学科小栗 彰さん
同じく修士（工学）の学位を授与され
た十七名の方々、ならびに福井工業大
学から学士（工学）の学位を授与され
た三一五名の方々にお喜びを申し上げ
ます。また、この日まで長きにわたり

皆さんは、大学生活において、専門分野の勉学を通して知識や経験の蓄積とともに、皆さん的一生の財産となる教養多くの出会いを通して大きく成長されました。そして今後は、社会の様々な分野に進まれ、活躍されることと存じます。皆さんのがんばりが認められることは、昨年末の政権交代以来、少し明るさを取り戻し、不況脱出に対する希望も持てるところですが、まだまだ多くの課題を抱えています。グローバル化の進む中、諸外国の追い上げや格差社会の拡がり、地球温暖化や深刻なエネルギー問題という大きな社会問題は依然として解決されないまま残っています。

資源の豊かでない我が国が、これらの諸問題を克服し、諸外国と競争しつつ共生し、かつ本当に安全で安心な社会へ

何が社会にとって重要なかを考え、あきらめず、障害にぶつかっても、それを乗り越える努力を重ねて行ってほしは

会を築いていくためには、我が国でなければならない、高い科学技術を基盤とした、持続可能で付加価値の高い「もの作り」やそれに関連する産業の発展、あるいはセーフティネットの構築を進めていかなければなりません。「技術創立国」を掲げ、「もの作り」で発展してきた我が国ではありますが、経済性や効率を追求してきた従来のやり方を繰り返すではなく、わが国を取り巻く、文化、経済、産業、福祉等あらゆる分野を考えつつ、技術開発において新しい価値を創造し、将来を見据えた胆に改革していくことが必要です。

そしてこのような新しい社会を作り出してしていくのは、皆さんのような若者にしかできないことであり、技術革新を発展の駆動力とする我が国においては、工業大学を卒業される皆さんへの期待が大きいものであります。そしてこの期待の中、皆さんに身につけていただきたい素養は、本学の教育モットーとして第一に上げている「創造力」であり、またそれを補完する「人間力」「共生力」であります。

このことは、在学中も繰り返し申しあげてきたことであり、いまさら繰り返す必要もないかと思いますが、「創造力」とは、新しい問題に挑戦し、論理的、創造的思考力を通じて、新しい技術、知識、価値を作り出していく能力です。常に自分で考える力を持ち、知識を応用する力を身につけ、能動的に行動することが大切で、これが新しい社会を築いていく原動力となるものであります。「人間力」とは、広い視野と豊かな教養、倫理観を身につけ、ものごとを広い立場から考え、人として正しく判断できる能力です。また「共生力」とは、まわりの人とコミュニケーションをとりながら、他者とともに生きる力です。

なお、まだまだ厳しい世の中ではあります。

ますが、明るい話題もありました。昨年八月にロンドンで開催されたオリンピックでは、金メダルこそ七個と予想を下回ったものの、今までの最高となる三十八個のメダルを獲得するという活躍でした。三連覇という女子レスリングの活躍などもありましたが、特に大会前にはあまり期待をされていなかつた、卓球やボクシング、アーチェリーなどでメダルが獲得できたことは、黙々と練習に励み、精進した結果かと、その努力に敬意を表する次第です。また京都大学の中山教授がiPS細胞の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞されました。現役の若い教授がこのような素晴らしい賞を受賞されたということは、現在のわが国科学技術の高さを示すものとして、医学のみならず広い分野の科学者・技術者を勇気づけています。しかしながら中山教授の輝かしい研究成果も、初めから順調に達成されたのではなく、何度も失敗や回り道を重ねつつ、その経験を活かしたり着いた結果だと話されています。

だきたいと思います。
また一方では、一昨年の東日本大地震の事故からの復興、福島第一原子力発電所の事故からの復旧は依然として進まず、まだまだ苦しく、不便な生活を送つておられる方々も多くいらっしゃいます。卒業される皆さんも、この震災を忘れないことなく、被災地の復興に対し、各人のできる範囲での支援を、息長く継続していくください。そしてこの震災は、われわれ技術者に対しても、安全部で安心な社会を築いていくことの大切さを、大きな課題として提起していきます。

そして、勉学は大学時代だけで終わるものではありません。これからが本当の意味での自分のための勉強が始まります。大学を卒業していく皆さんに、「学問の進め」の話をするのは、少し奇異な感じを持たれるかもしれません。大学にいる間は、学問すなわち勉学に励むのは当たり前のことで、皆さんも建学の精神に則り、人間性を養い、科学生技術の研鑽に努めてこられました。しかしながらこのような努力はなにも、在学中にがぎるのでなく、これから進まれる社会においてこそ、勉学を深めていただきたいとの思いを込めて、福沢諭吉の「学問の進め」にふれてみたいたいと思います。

この書は、人は生まれながらにして皆が平等であることを意味する「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」という言葉で始まることは皆さんもよくご存じのことだと思います。しかし皆さんにはそれに続く言葉をご存知でしょうか?現代語学に直しますと「しかしながら、広く世界を見渡してみると、賢い人もおろかな人もいる。貧しい人も富める人もいる。また、社会的に地位の高い人も、低い人もいる。こうした雲泥の

だきたいと思ひます



理事長
金井 兼

たいという思いでここに参りました。

昨今の日本社会の現状は大学生・大

学院生ですから、どういう状況にある

のかはよくよくお分かりのことと思

ます。経済情勢をはじめ多様な外交問

題や防衛問題がありますが、今日本が

抱えている一番大きい問題は少子高齢

化という大問題です。いわゆる若い人

の数が少なくて年を召されたお年寄り

の人口が多い、つまりピラミッドが反

対の形になつている状態です。これは

何を意味するかと言えば、それだけ日

本という国の国力、国の力というものが

低下していることを表しているので

す。日本学位記を受けられてよいよ

皆さんは明日から羽ばたいていかれる

のですが、皆さんの双肩その両肩に担

う責任の重さは、私たちの年代が社会

に出た時と比べると二倍にも三倍にも

なつていているということです。日本は何

の資源もない国家ですが、ようやく一

日も近づいています。皆さんは四年間或

は五年間、この大学で勉強し学び、経験

三三三名の卒業生の皆さん、そして多

数ご来学を頂きました保護者ご家族の

皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、本日は年度末のお忙しい中、福

井県知事のご名代として福井県総務部

企画官、先ほど理事長賞を受けられま

したモンゴルからの留学生のためにモ

ンゴル大使館のバヤスガラン領事、議

会中大変お忙しいところ吉田伊三郎県

議会議長様、県内高等学校の校長先生、

本学の名誉教授、卒業生の皆さんが在

学中大変お世話になりました関係の皆

様、このようにご来賓多数のご来学を

頂きました、厳粛かつ盛大に学位記授

与式が挙行できますことを、学園の理

事会と教職員を代表致しまして、心よ

り厚く御礼を申し上げます。

私の不注意から一昨日より風邪をひ

きまして熱が下がらなく、今朝解熱剤

を打つて参りましたので、お聞きのと

おり声が聞き辛いと思いますが、卒業

生の皆さんにはお許しを頂きたいた思

います。本日卒業されます三三三名の思

半数が県外出身の学生さんですから、

恐らく今日この学位記授与式を終える

と、二度とお会いすることができない

学生さんです。ですから今日はなんと

しても学位記授与式に参列したい一心

で、そして皆さんに一つだけお伝えし

て、これからの日本を支えてほしい

学んできた科学技術に自信と誇りを持つて、

これからの日本を支えてほしい

とつて一番悪いといわれる事は諦める

こと、直ぐに諦めることです。皆さん

は決して諦めることなく、輝かしい未

来が待っている、輝かしい未来は自分

の普段の努力で創るという信念を持っ

て、これから時代を力強く歩んで頂

どうかこれから日本を支えて下さい。

何とかして皆さんご縁を孫の世代に

この日本を残してあげられるように、

今後も普段の努力を期待したいと思



平成24年度卒業生 寄 贈

学位記授与式当日、卒業記念品
として「ボーラーパーティション」



最後になりますが、健康に留意され、
それぞれの進まれる道で、充分に力を
発揮され、活躍されることを祈念して、
学位記授与式の式辞といたします。

最後になりますが、健康に留意され、
それぞれの進まれる道で、充分に力を
発揮され、活躍されることを祈念して、
学位記授与式の式辞といたします。
（前頁より）
差と呼ぶべき違ひはどうしてできるの
だろか」と問い合わせ、その違いは、
「学ぶか学ばないかによってできるも
のである」と明確に述べています。こ
のことは、これから始まる社会人とし
ての生活においててもいえることです。
こそ、目標を達成すべく勉学を続けて
いくください。大学で身につけた考
え力、知識を応用する力、また人間
として生きる力を絶えることなく磨き
つつ、建学の精神に謳う、人類社会の
福祉に貢献することを頭に学び続け、
努力していくいただきたいと思って
います。

最後になりますが、健康に留意され、
それぞれの進まれる道で、充分に力を
発揮され、活躍されることを祈念して、
学位記授与式の式辞といたします。

最後になりますが、健康に留意され、
それぞれの進まれる道で、充分に力を
発揮され、活躍されることを祈念して、
学位記授与式の式辞といたします。

ローバルな舞台で、英語で仕事ができる人材に成長されているはずです。

ここで、本学における学士課程教育におけるカリキュラムの特徴に触れておきたいと思います。「学士課程教育」とは、皆さんには耳慣れない言葉かも知れませんが、学部四年間の教育のことです。皆さん、四年間で所定の単位を取得すると「工学生士」の学位が授与され、それが、つまり卒業ということがあります。皆さんが進まれる学科とあります。皆さんのが進まれる学科における専門知識と技術を習得することだけが、皆さんのが福井工業大学に入学された目的であつてはなりません。

二十一世紀の「知識基盤社会」において、グローバルに活躍することが期待されている皆さんには、専門分野だけでなく、幅広い分野の知識を習得し、問題を大局的に捉える能力を身に付けていたい必要があります。そのために、本学では、専門分野の教育だけでなく、教養分野の教育にも等しく重点を置いている、ということを肝に銘じていただきたいと思います。

教養分野教育は、「人間教育」と「工学基礎教育」から成りますが、「人間教育」は、人間としての生き方、日本や世界の歴史と文化、コミュニケーション能力など、幅広い教養を身に付けていたくとも、「人間力」を醸成するための教育です。また、「工学基礎教育」は、幅広い工学に共通した基礎となる知識を得るとともに、「創造力」を養うための教育です。皆さんには、工学基礎教育を通して、しっかりと基礎学力を養つていただきたいと願います。基礎学力は、スポーツに置き換えますと基礎体力のようなものですね。基礎体力を付けておかなければ、きつい練習に耐えることが出来ず、従つて、高い技術レベルに到達することができません。それと同じように、専門分野教育において高度な専門的知

識や技術を習得するために、基礎学力をしっかりと身に付けていただく必要があるのです。

学びの日々の中でも、皆さんは挫折を経験することがあると思います。「挫折の数だけ強くなれる」という言葉がありますが、その言葉を信じて、決して逃げたり、諦めたりすることなく、愚直に困難と向き合い、ひた向きな努力を続けてください。後になつて振り返つて見ると、苦しかった中にも、一歩一歩、確かな前進を続けてきた自分に気づくはずです。繰り返しますが、決して諦めではないません。

次に、工学研究科に進学された皆さんにも、一言申し上げます。皆さんは、学士課程の卒業研究において、指導教員から研究テーマが与えられ、研究の進め方や問題解決の方法論について懇切丁寧な指導を受けられた結果、今では、それぞれの分野での「専門家」の域に近づかれた方々です。しかし、皆さんには是非お願意したいことは、狭い分野の専門家になることを決して急がないでいただきたいということです。ある特定の分野を深めることは、確かに

二十一世紀の「知識基盤社会」において、グローバルに活躍することが期待されている皆さんには、専門分野だけでなく、幅広い分野の知識を習得し、問題を大局的に捉える能力を身に付けていたい必要があります。そのために、本学では、専門分野の教育だけでなく、教養分野の教育にも等しく重点を置いている、ということを肝に銘じていただきたいと思います。

教養分野教育は、「人間教育」と「工学基礎教育」から成りますが、「人間教育」は、人間としての生き方、日本や世界の歴史と文化、コミュニケーション能力など、幅広い教養を身に付けていたくとも、「人間力」を醸成するための教育です。また、「工学基礎教育」は、幅広い工学に共通した基礎となる知識を得るとともに、「創造力」を養うための教育です。皆さんには、工学基礎教育を通して、しっかりと基礎学力を養つていただきたいと願います。基礎学力は、スポーツに置き換えますと基礎体力のようなものですね。基礎体力を付けておかなければ、きつい練習に耐えることが出来ず、従つて、高い技術レベルに到達することができません。それと同じように、専門分野教育において高度な専門的知

に重要なことではありますが、大学院生のうちは、与えられた研究テーマに閉じこもることなく、広い視野を忘れずに、常に広く「学ぶ」ことを心がけ、将来に備えて、応用力に富んだ、幅のある専門知識と技術を身に付けることに心掛けたいと希望します。

二十一世紀の「知識基盤社会」では、最先端で高度な専門知識と技術を身に付けた技術者や研究者への社会の期待が益々大きくなっています。その期待に応えるべく、高い志を持って、さらなる研鑽を積み重ねていってください。学部入学生の皆さんには四年間は、大学院博士前期課程に進学された皆さんにも、一言申し上げます。皆さんは、学士課程の卒業研究において、指導教員から研究テーマが与えられ、研究の進め方や問題解決の方法論について懇切丁寧な指導を受けられた結果、今では、それぞれの分野での「専門家」の域に近づかれた方々です。しかし、皆さんには是非お願意したいことは、狭い分野の専門家になることを決して急がないでいただきたいということです。ある特定の分野を深めることは、確か

にあります。その言葉を信じて、決して逃げたり、諦めたりすることなく、愚直に困難と向き合い、ひた向きな努力を続けてください。後になつて振り返つて見ると、苦しかった中にも、一歩一歩、確かな前進を続けてきた自分に気づくはずです。繰り返しますが、決して諦めではないません。

次いで、金井兼理事長は、「今日の佳き日、晴れの入学式を迎えたる大学院生、工学部学生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。また、ご両親やご家族の皆さんに心からお祝い申し上げます。

この工学部の門を叩かれ、工学部の門を潜られた時点で、皆さんには科学者としてのスタートを切られました。日本は「ものづくり」や「技術開発」から目を背けようと、ここ十数年来、月日を無駄に過ごしてきました。しかし考えて頂くとお分かりのように、日本は第二次世界大戦（太平洋戦争）の後、敗戦国として焦土と化してしまいました

た。この焦土と化した国家が、今このようにな繁荣しているのはどうしてか。時代が必ずやつて来ます。今日から始まる大国になつたのはどうしてか。経済大

学部博士前期課程に進学された皆さんにも、一言申し上げます。皆さんは、工学研究科に進学された皆さんにも、一言申し上げます。皆さんには、専門分野の卒業研究において、指導教員から研究テーマが与えられ、研究の進め方や問題解決の方法論について懇切丁寧な指導を受けられた結果、今では、それぞれの分野での「専門家」の域に近づかれた方々です。しかし、皆さんには是非お願意したいことは、狭い分野の専門家になることを決して急がないでいただきたいということです。ある特定の分野を深めることは、確か

にあります。その言葉を信じて、決して逃げたり、諦めたりすることなく、愚直に困難と向き合い、ひた向きな努力を続けてください。後になつて振り返つて見ると、苦しかった中にも、一歩一歩、確かな前進を続けてきた自分に気づくはずです。繰り返しますが、決して諦めではないません。

次いで、金井兼理事長は、「今日の佳き日、晴れの入学式を迎えたる大学院生、工学部学生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。また、ご両親やご家族の皆さんに心からお祝い申し上げます。

この工学部の門を叩かれ、工学部の門を潜られた時点で、皆さんには科学者としてのスタートを切られました。日本は「ものづくり」や「技術開発」から目を背けようと、ここ十数年来、月日を無駄に過ごしてきました。しかし考えて頂くとお分かりのように、日本は第二次世界大戦（太平洋戦争）の後、敗戦国として焦土と化してしまいました

であること

を求める

時代が必ず

やつて来ま

す。今日か

ら始まる大

学生生活にお

いて、学問

は当然のこ

とながら、

逞しい人間

に成長され

るよう自己研鑽に励んで頂きたいと強

く願います。

先程、学長の話の中に挫折の話がありましたが、大学生活において講義を受けたり実験を進める中では、分からぬ事が多々あります。それは小学校・中学校・高等学校で学んできた内容と違う内容を学ぶからです。分からぬ事、失敗することは当たり前の事です。しかし、現在の日本はようやく経済を取り戻そうとしています。今こそ日本が忘れていた「科学技術」を復活させる時代なのです。

時あたかも、少子高齢化が進み、この二十年間に皆さんの年齢の十八歳人口が半分に減りました。今後益々若い人の人口は減り続けます。そうなると必ずと科学技術を勉強される皆さんの双肩にかかる責任は重くなります。皆さんが当大学を卒業されて社会で活躍される頃には、好むと好まざるに拘わらず、世界と対等に、それ以上に渡り合わなければならぬ時代が来ます。その時代に社会はどのような人材を必要とするのか。国際社会に英語力は絶対に必要であり、外国の文化や風習や慣習を理解し得るだけの広い心も必要です。しかし、総括的に考えた時、單に言葉が喋ればいい、單に

外国语の事情が理解できればいい、という問題ではなく、日本人・国際人として国際社会に通用する教育を受けたこと、また高等教育を受けたことに対する自信と誇りが皆さんに求められたことです。なおかつ、各企業が逞しい人物です。なおかつ、各企業が逞しい人物です。なおかつ、各企業が逞しい人物です。」と、お祝いの言葉を述べられた。





建築生活環境学科主任 吉田純一

1

建築生活環境学科

◆一昨年三月十一日に東北太平洋沿岸を襲った大地震と大津波、福島第一原子力発電所の事故に伴う大災害については、今も皆さん的心や目に焼き付いていることでしょう。あれから二年を経過しようとしているのに現地での復興や再生は遅々として進まず、多くの人が生まれ故郷や我が家を離れ、仮設住宅での生活を余儀なくされています。

復興・復旧が遅れる原因としてももちろん政府や行政的確な対応がなされていないこともあります。地域やまちづくりなど、社会基盤あるいは社会システムに関わる分野に秀でた技術者が少なく、適切な方向性を確立できないことにも一因があると考えられます。建築や土木の分野は、人々がこうした災害に対して安全で、安心でき、かつ良好な環境のもとで豊かに暮らせる生活空間すなわち都市やまち、地域を創りだし、それを持続していくことが大きな使命といえます。

◆本学の建築生活環境学科は、東日本大地震が発生した直後の平成二十四年四月、それまでの建築学科と土木環境工学科を改編統合して設置されました。一年の定員六十五名、教員十四名からなる学科で、建築技術設計コース、生活空

間・まちづくりコース、環境防災コースの三コースからなっています。

なかでも生活空間・まちづくりコースは、人同士や人ともの・情報との結びつきから成り立っている地域コミュニティに主眼をおきながら安全で快適な生活空間を構築する知識や技術を学ぶコースです。これから地域やまちづくりにとって必要な建築・土木の両分野を広く見通せる技術者や行政マンの養成をめざしています。まさに時宜を得たコースといえます。

また、建築技術設計コースは従来の建築学科を基盤として再編されたコースで、住宅から学校や美術館などの公共施設、さらに超高層ビルなどの大規模な建築まで、あらゆる種類の建築に関する知識や設計技術者の養成をめざしています。本学の



学生による町なみ調査（永平寺町門前にて）

◆スタート年であった平成二十四年度は準備不足もあって定員充足には至りませんでした。しかし、平成二十五年度は七十二名が入学。設立から三年目を迎える、本学建築生活環境学科は、よいよ確かに歩みを刻み始めようとしているのです。



他大学と共同の設計作品公評会

目玉である伝統木造建築に関する教育・研究もこのコースに含まれています。

一方、環境防災コースは、土木環境工学科を基盤としながら、特に防災に主眼をおき、頻繁に発生している自然災害から人が将来にわたり、安心して暮らせる

社会基盤や社会システムの構築に関わる技術者の養成をめざすコースです。自然と共に生し、災害に強い町や都市づくりを学び、自然災害から人の生活を守り、持続可能な社会づくりを追及していきます。

以上のように、本学建築生活環境学科は、従来の建築技術者や土木技術者だけでなく、生活空間・まちづくりに関わる技術者も含めながら、建築と土木の両分野に精通した技術者の育成を大きな目標としています。この目的に添うように、カリキュラムもコースを横断できる編成しています。



デザイン学科主任 前田博司



えちぜん鉄道七タアート電車

デザイン学科は、平成二十一年にスタートした新しい学科です。本学のデザイン学科は、工学部の良さを生かしながら本格的にデザインが学べる学科として、従前の建設工学科建築学専攻空間芸術コースと経営情報学科メディアデザインコースを母体とし、新たにプロダクトデザインのデザイナーや専門家を教員として招聘して、この学科ができました。工学部に所属するメリットを生かし、実際の社会で役に立つ技術を身につけることをめざして、ものづくりの精神を基盤に置いた教育を行っています。

現代の製品開発や環境デザインの世界では、機能性や経済性もさることながら、

トした新しい学科です。本学のデザイン

学科は、工学部の良さを生かしながら本格的にデザインが学べる学科として、従

前の建設工学科建築学専攻空間芸術コー

スと経営情報学科メディアデザインコー

スを母体とし、新たにプロダクトデザイ

ンのデザイナーや専門家を教員として招

聘して、この学科ができました。工学部

に所属するメリットを生かし、実際の社

会で役に立つ技術を身につけることをめ

ざして、ものづくりの精神を基盤に置い

た教育を行っています。

新しい価値観を提案する創造的なコンセプトを魅力的に表現するデザインに重点が移っています。デザイン学科では、こうした視点に立ち、建築デザインを軸としてインテリア・家具・ランドスケープなどの周辺領域を扱う住環境デザイン、工業製品のデザインを軸としたプロダクトデザイン、コンピュータグラフィックスを軸として映像やインタラクティブなコンテンツデザインを扱うメディアデザインの、3つの領域に関する専門教育の実践と、工学と芸術の融合をめざす作品の制作や研究活動を通して、美しく快適な人間生活の創造に携わるデザイナーやデザイナーに関する人材の育成をめざしています。

施設としては、大学一号館七階と八階を改修して、教員の研究室に隣接するデザイン実習室（スタジオ）としました。また、木工・金工などの工房（SSLデザイン工房）も完成し、道路に面した展示スペースも設けました。

毎年、一年間の学習成果を作品としてまとめ、それを発表する進級制作展を開催しています。平成二十四年度は完成年度を迎えましたが、三年生以下の作品も

2 デザイン学科



SSL 工房での実習作業

同時に展示しました。

また、えちぜん鉄道の車両を、七夕をテーマとした現代アート作品に仕上げて運行する「七夕アートプロジェクト」や、福井市との相互連携協定の一貫として中山間地域の上味見地区の活性化事業、バスのラッピングデザインなど、多くのプロジェクトに、学生有志が挑戦しています。先生方のアドバイスを得ながら、制作した作品は、新聞やテレビなど、多くの報道機関から取材を受け、高い評価を得ております。

今後も、デザイン学科では、地域で活躍できるデザイナーやデザインに関わる職業人の育成に力を注いで行きます。



実習作品（ベンチ）の発表会

3

経営情報学科



経営情報学科主任 松岡博幸

経営情報学科は、工学部の中では文科系の色彩の強いユニークな学科です。マーケティングや簿記・会計といった経営分野と、プログラミングや情報セキュリティなどの情報分野との両面を学ぶことで、社会で必要とされる幅広い知識と応用力を獲得できるのが特徴です。進歩の著しい情報社会に柔軟に対応するための基礎となる知識や技術と共に、ビジネスに必要な経営感覚と倫理観を身につけた、実社会に貢献できる人材を育てています。

本学科は、経営システムコースと情報システムコースの二コースからなります。

経営システムコースでは、経営学や会計学といった、企業が長期に亘って存続し発展するための基礎知識を修得させ、企業が直面する諸問題を現実的に解決していくマネジメントスキルを養成します。

そのため、基礎科目の学習に加えて、自らの力で問題解決へと導く数多くの演習や実習科目を配置しています。さらに、学生の総合的能力を向上させるため、コンピュータ並びに簿記・会計関連の資格取得について授業や課外指導を通して全面的にサポートしています。このような環境の下で学生の中には税理士や公認会計士を目指す者も現れています。平

成二十一年三月に本学科を卒業した根来君は、在学中に磨いた簿記・会計の知識をさらに深めて、現在までに税理士試験の五科目中、「簿記論」「財務諸表論」「法人税法」の三科目に合格しており、税理士試験合格の快挙でもう一歩です。本人の研鑽によるところ大ですが、在学中の基礎勉強が大変役立ったとのことです。

情報システムコースにおいては、今日の情報通信技術（ICT）の発展が社会のあらゆる分野に大きく関わっていることから、卒業生が幅広い分野で活動することを念頭に置いた教育を行っています。例えば、関連する教育・研究として、環境とICTでは、水資源におけるライフサイクルアセスメントを考えることで上水道と雨水併用について地域性を考慮した最適化を試みています。他方、高齢化医療とICTでは、今日、わが国の年間二〇万人以上が罹患する脳卒中に対しても、ICTを用いた片麻痺患者を主な対象とする上肢リハビリ支援ロボットとそれに実装するリハビリメニューの開発を行っています。現在開発しているロボットは、ディスプレイを見ながら麻痺側上肢で口

ボットアームを指示通りに動かし麻痺の改善をはかります。（図参照）。

私たち学科教員は、これから社会が必要とする産業を見据え、関連する専門分野の知識・技術だけではなく、一人の社会人として、望ましい倫理観を有する人材の育成をこれまで以上に追及し、目指していく所存です。



上肢リハビリ支援ロボット



産業ビジネス学科主任 野村康則

4

産業ビジネス学科

平成二十三年度に設立したばかりの学科で第一期生が今年三年生となります。工学部の中には文系的要素の強い全国的にも大変ユニークな「文理融合」が本学科の看板です。特にスポーツ系のコースを設けたことにその特色があります。

二年次から「地域共生ビジネス工学コース」と「スポーツビジネス工学コース」という2つの専門コースに分かれて教育を行います。いずれのコースにおいても、社会で求められる十分な実務スキルの育成を教育の柱としています。工学部という恵まれた環境にありますので、高校時代に理数系科目に触れる機会が少なかつた学生にとっても、理数系の基礎を再度学びながら、ビジネス実務の素養を身に付ける、というのは将来企業人として仕事をする上で大変有意義であると思います。こういう恵まれた環境で勉学にいそしめる喜びを味わって欲しいものです。

「スポーツビジネス」という名称は未だ日本では一般に定着していないようですが、現在は野球・サッカー・テニスやゴルフ始め世界的なスポーツチームにあり、スポーツ関連のビジネスが急速に拡大しています。江戸川大学社会学部の澤田和彦氏によればスポーツ産業の市場規模の



坂井市長様と懇談する本学科の学生

での高い就職率に期待を持っています。私の長いビジネス経験から、スポーツ経験のある企業人は、厳しい環境の中でも確実に頭角を現し、企業内でコミュニケーション力とリーダーシップを発揮し成功する人が多く見受けられます。

本学では国際社会で活躍する人財の育成に力点を置く方向でカリキュラムが組まれていますが、本学科には独自の英語専門の教員があり、放課後ボランティアで英会話教室を開いて希望者に指導を行っています。これからはグローバルに活躍する学生が出てくるといいと思います。

また日本経済の復興が叫ばれている中、我々教員の経験などが少しでも地域社会のお役に立てれば、という気持ちであります。可能な範囲内ではありますが、企業様との共同研究始め、大学と地域の皆様との連携強化が図れればいいと思いませんで何かお役に立てることがあります。たら遠慮なくお申し付け頂きたいと思います。

合計は十一兆円を超える規模と言われており、スポーツ用器具・スポーツ各種施設・フィットネス事業などにこれから幅広い人財が必要となってきます。十一兆円という金額はちょうど消費税五%の税収入に匹敵するほどの大きな規模と言えます。

また2018年に開催されます福井国体成功裏の開催に向けて既に県を挙げて準備が始まっています。本学科としても微力ながらその支援を行いたいと思います。

第一期生には一〇〇%近い内定率を目指していますが、特にスポーツビジネス系

芦原で風力発電の説明を聞く学生



【研究室を訪ねて】

西田 好宏
電気電子情報工学科 教授



いつでも、どこでも、 検索・「ミニユーニケーション」のための 空中手書き文字入力の研究

最近、クラウド・サービスという言葉をよく聞くようになり、いつでも、どこでも、ふと思いついたアイデアなどをメモとしてクラウドに保存したり、日々の出来事をつぶやきあつたりする機会が増えています。このようなクラウド・サービスや検索サービスなどを使おうとした時に、重要なのが文字入力です。

パソコンに文字を入力するためにキーボードを使う必要がありましたが、今ではスマートホンが普及して、タッチパネルで文字が入力できるようになりました。そのタッチパネルの次の入力方法として、西田研究室では、「空中手書き文字入力」の研究を行っています。(写真1)

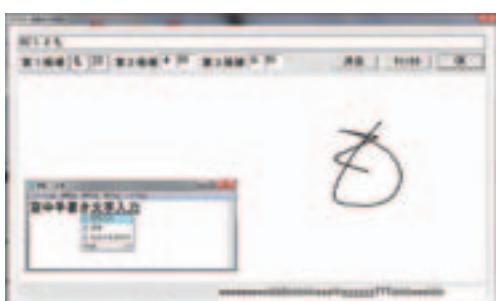
「空中手書き文字入力」を実現するためには、①手の動きを検出するセンサの技術、②検出した動き情報を認識する「文字認識エンジン」の技術、③認識した文字に対して訂正や選択、変換などを行って文章を作成するパソコンの「IME」に相当する技術、の3つの技術が必要になります。



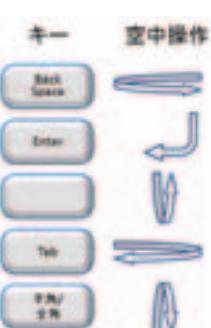
(写真1) 空中手書き文字入力研究の様子

最初に注力したのは、動き情報から文字を認識する「文字認識エンジン」でした。空中で字を書く場合には筆跡が見え

ないため正確な字を書くことが難しく、ペン先の上げ下げ、即ち1画、2画というストロークの区別も非常に困難になります。そこで、1つの文字の筆跡を一筆連続書きとして、その相対的な移動方向のみに着目して認識する方法を採用しました。その結果、ひらがな、数字、アルファベットを1文字単位で認識出来るようになりました(写真2)。



(写真2) 1文字単位で一筆書きを認識



(写真3) 空中操作例

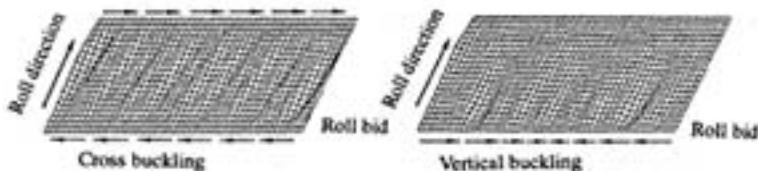
今後、手の動きを検出する各種センサと組合せてシステムを構築、実用化を目指します。現在、検討中の主な用途は、メガネ型コンピュータや携帯の入力デバイス(写真4)、タッチ入力のための注視を不要にして安全に文字を入力できるカーナビ、検索可能なデジタルサイネージ等です。さらに、わずかな動きでも文字を認識できる意思伝達支援装置に応用することで、いろいろな障害や病気で思ったように情報を伝えることが困難な人達を支援したいと考えています。



(写真4) メガネ型携帯のシステム例

【研究室を訪ねて】

富田
佳宏
機械工学科・教授



(図1) 薄板の圧延過程において発生する様々な欠陥の予測

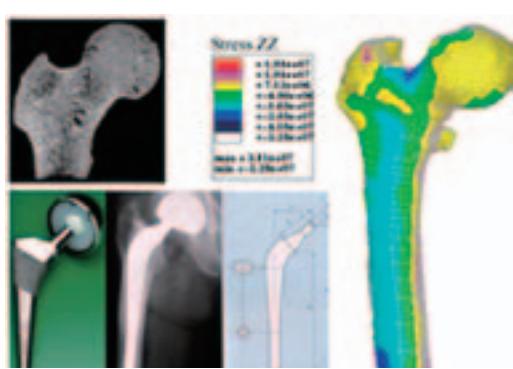
あらゆる分野のものつくりの基盤になっている機械工学の中でも、材料の力学に関連した領域は、安全・安心な持続的発展をもたらす社会の構築に必要不可欠であります。研究室では、様々な材料・構造の強さ、材料の成形性の予知、材料・構造の高機能化をはじめ新たな材料開発に必要な、材料が大きく変形したときに発生する様々なスケールの不安定現象の予測、多種多様な材料のミクロ・マクロスケール大変形応答の評価法とその応用に関する研究を行っています。

得られた研究成果は、様々な金属材料の成形過程中に発生する、欠陥の予知に適用され、設計指針も提供しております。図1は、薄板の圧延過程における縦座屈、横座屈の発生予測の一例です。近年、研究対象を金属材料から、ゴム、ポリマー、生体へ拡大しております。分子材の応答の一層正確な予知を目

指し、新たに非アフィン分子鎖網目モデルを提案し、実験と数値シミュレーションによって、広範な変形状態を予知可能であることを実証しております。この研究の、最も成功した工業的な応用例として、図2のタイヤゴム材の高機能化があります。充填されたカーボンプラックの体積含有率や分散形態の制御により定常走行時の燃費を抑えつつ制動特性の改善をもたらすタイヤ材の開発を可能としております。

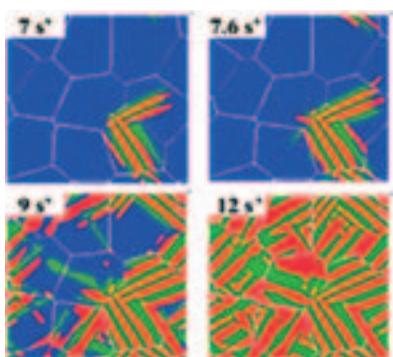
材料は各種環境下において相変態が発生し、新たな特性を有する材料となります。温度変化や変形によつて所定の特性を持つ材料の創生に応用できます。

生体を対象として、図4に示す骨の成長を考慮した人工装具の設計や自然界にあるものの機能と形態の



(図4) 海綿骨の生長・消滅を取り入れた人工大腿骨骨頭の設計

ても相変態が発生します。液相から固相への相変態、固相から別の固相への相変態などを対象として、変態現象の予測と、新たな相の特性予測も行っています。これらの研究は、金属から高分子材に至る多様な材料を対象としており、図3に示すような加工中に発生する相変態の予測や熱処理過程の適切な制御によって所定の特性を持つ材料の創生に応用できます。



(図3) 結晶レベルの相変態の進展予測

関係を研究し人工的に好ましい材料あるいは構造物を作ることを視野に入れた研究も推進しています。最近の卒業研究では、木材や竹の断面の不均質構造とその力学的な環境適応性、昆虫の各部位の機能と形態についての研究を行っております。今後、安全・安心でかつ環境への配慮をした材料・構造の設計に、自然物の持つしなやかな特徴を力学的に評価した結果を生かす研究を推進していく予定であります。

力学を通して見る 材料のミクロ・マクロスケール応答の 評価と高機能材料の創生の研究

本学に 赴任して



原子力技術
応用工学科
来馬 克美
教授

平成二十一年三月に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生し、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故が発生しました。決してお起してはならない事故が発生し、多くの地域住民に避難生活等を強いている事態は本当に残念です。

ると、電気を使うなと言われてしまう。(略) 莫大なエネルギーを生み出す原子力は、潜在的な危険性が実に大きい。もしも原子力利用に安易に喝采を叫べば、軍事利用という最悪の事態にも至りかねない。かといって、人知の結晶である原子力をを使わないのも愚かな姿勢だろう。地球温暖化や化石燃料の枯渇が問題になつてゐる現在、原子力以外に有効な代替エネルギー技術は存在しない。まして、原子力エネルギー抜きで経済発展しろと発展途上国に要求するのは、あまりにも酷な話だ。軍事転用という深刻な危険性を忘ることなく、その巨大なエネルギーを平和に利用することが、人類の英知の結晶である原子力に課せられている。原子力の光と影を忠実に映し出すことが重要である。その原子力がある福井県で、私たちは今日も暮らしてゐる。」



原子力技術
応用工学科
西本 和俊
教授

の見にいく状況にあります。このような不安を打破するためには、やはり将来を担う若者の活躍に対する期待がより大きくなり、大学など教育機関の果たすべき役割もますます重要になると思われます。昨今、社会では人材育成の重要性が再認識され、政府も各領域の人材育成プロジェクトを展開しています。その主たる対象の一つにグローバル社会に対応した人材育成があります。資源小国である我が国が反映を持続するためには、「価値あるモノ」を輸出することにより資源、エネルギーや食物を輸入する原資を確保するという基本は今後も変わらないといえます。流動的な世界の動きに対応してこの基本を維持して行くにはグローバルなシーンで活躍していく人材の育成が強く求められています。本学でも、これに対応すべく語学教育を充実した新カリキュラムが組まれ、新年度より実施されます。グローバル化に対応する人材として要求される要素として重要なのは語学だけでなく、専門領域におけるしつかりした知識や経験が必要なのはもちろんですが、もう一つ重要な要素があります。それは、「マチュアリティ」です。日本の若者は欧米先進諸国の同世代の若者に比べ、この点において劣っているように思われます。社会事象や自分の人生の将来に対してもつかりした考え方を持ち、いろいろなシーンで大人の対応ができない、また、必要な場合に堂々とした態度で自己表現

私は、大阪大学で三十五年間の教員生活を終えた後、昨年四月より本学に就職いたしました。大阪大学時代はどちらかといえば研究を通じての教育を実施してきましたが、本学に就職して職務の重心が教育にシフトし、より密に学生と接し、彼らの教育ができるることを新たに喜びとしています。学生諸君が将来社会に出た後、海外でも活躍できる人材になることを目指した、教育指導を今後も実施していくこうと思つております。

電所の稼働を計画しているベトナムの人材育成に協力できるよう取り組んでいます。原子力を取り巻く厳しい環境がなお続いているが、学生と一緒に乗り越えられるよう頑張っています。

私は、平成二十二年十月に「君は原子力を考えたことがあるかー福井県原子力行政四十年私史ー」を上梓しました。そのあとがきの一部を引用します。

「原子力の立場は、常に危ういバランスの上に立っている。ガバナンスだけ考えると、リスクを

我が国は震災以後の経済不況や近い将来の超高齢化社会を迎える不安など諸問題を抱え、先

インターナショナルセンター 活動報告

英会話カフェ

インターナショナルセンターでは週に2回、5限目に「英会話カフェ」を開いています。お茶やお菓子を食べながら、リラックスした雰囲気の中で外国人教員と毎回様々なテーマで話が盛り上がります。インターナショナルセンターには数名の外国人教員が常駐しており、昼休みや授業の合間でも気軽に英会話を楽しむことができます。



TOEIC 対策講座

TOEIC（トイック）とは、英語のコミュニケーション能力を測るための資格試験で、多くの企業が社員の英語力を測定する手段として採用しています。そのため、TOEICのスコアを取得することは就職活動の際に大きなアピールポイントとなります。インターナショナルセンターではキャリアサポートの一環として希望者を対象に TOEIC のスコアアップを目的とした対策講座を開講しています。



留学生受入推進・支援

現在、中国からの留学生が本学で学んでいます。インターナショナルセンターでは、留学生が安心して日本での大学生活が送れるように、生活相談や精神面でのサポートを行っています。さらに講義内容の理解がスムーズに進むように日本語学習支援にも力を入れています。また福井での留学生活が充実したものになるように、スキービュー体験や日本文化に触れる機会を設けています。



多文化体験

インターナショナルセンターでは、一般の学生と留学生、外国人教員との交流を目的としたイベントを年に数回開いています。平成24年度は、5月にティーパーティー、10月にハロウィンパーティー、12月にクリスマスパーティーを開催しました。ティーパーティーでは、紅茶、中国茶、日本茶を飲み比べながら、イギリス人と中国人の先生からそれぞれの国のお茶文化に関するレクチャーを受けました。ハロウィンパーティーでは、グループごとに分かれて、日本人学生、留学生、外国人教員と一緒に実際にかぼちゃのランタンを作りました。参加学生は日本語、中国語、英語が飛び交う、まさにインターナショナルな雰囲気の中で多文化を実験しました。



がんばつてます

理事長賞・学長賞

三月十五日の学位記授与式において次の学生が受賞しました。

理事長賞

建設工学科建築学専攻
バヤルサイハン トゥグルドウル

建築学科

建築学科

島木 梨紗

齋藤 弘崇

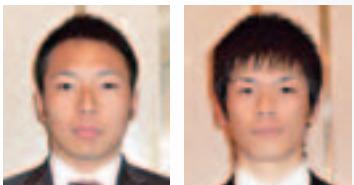


齋藤 君



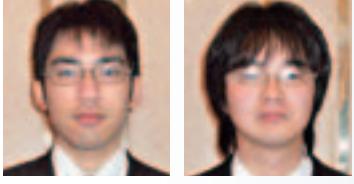
バヤルサイハン
トゥグルドウル君

島木 さん



白木 君

安念 君



田地 君

林 君

創成科学賞

「創成科学」は、通常の教室での授業や実験とは異なり、学生自身が自らの考えに基づき、それまでに修得した知識の創造的な応用によって、自分が選んだ課題を解決していく授業です。その結果、優秀な研究を行った学生に対して、その努力と成果を表彰します。今回の受賞者は次のとおりです。

創成科学

【平成二十三年度後期】
◎優秀賞

経営情報学科 三年

デザイン学科 四年

水野 納理

「近年のキヤラクターの

傾向について」

笠川 慎矢

「クイックソートの安定化」

原子力技術応用工学科 三年

畠山 巧



「指標生物の探索」

※受賞者の学年は平成二十四年度の学年

平成24年度特別奨励金（クラブ成績）

【クラブ奨励金】

[個人]

No	クラブ名	大会名	大会成績	金額
1	カヌー部	第2回全日本学生カヌー長距離選手権大会 C-1 15000m	5位	¥10,000
2	馬術部	第67回 国民体育大会 馬術競技 (成年女子 馬場馬術競技)	8位	¥10,000
3	馬術部	第68回 国民体育大会 馬術競技 (成年女子 自由演技 馬場馬術競技)	7位	¥10,000
4	馬術部	第48回 全日本学生馬術 女子選手権大会	4位	¥10,000

[団体]

No	クラブ名	大会名	大会成績	金額
1	カヌー部	平成24年度日本カヌースプリント選手権大会 男子カヤックペア 500m	3位	¥30,000
2	カヌー部	第48回全日本学生カヌースプリント選手権大会 K-4 1000m	8位	¥10,000
3	カヌー部	第48回全日本学生カヌースプリント選手権大会 C-4 1000m	7位	¥10,000
4	カヌー部	第48回全日本学生カヌースプリント選手権大会 K-1 Relay 4×500m	7位	¥10,000
5	カヌー部	第48回全日本学生カヌースプリント選手権大会 C-1 Relay 4×500m	6位	¥10,000
6	馬術部	平成24年度 全日本学生馬術大会 3種目総合	8位	¥10,000
7	馬術部	第55回 全日本学生賞 典馬場馬術競技大会	6位	¥10,000

【規程抜粋】

特別奨励金 対象となる大会成績

対象となる大会成績		
A: 10万円	オリンピック出場	世界大会出場
B: 5万円	インカレ優勝	国体優勝
C: 3万円	インカレ準優勝又は3位	国体準優勝又は3位
D: 1万円	北信越又は中部地区3連覇	全国大会ベスト8

環境生命化学科
経営情報学科
デザイン学科

原子力技術応用工学科
清水 野口 平林裕一郎
久島 恒輝 加藤 聖也



清水 君 平林 君 加藤 君



野口 君 久島 君

【平成二十四年度前期】

◎優秀賞
デザイン学科 二年

「アツと驚く新しい紙の世界」

西川 和貴

「温泉卵の作り方」

大津 咲

◎努力賞

機械工学科 二年

屋武 誠

「良い潤滑剤はどれか？」

（卵について知る）



卒業研究展

(四年間建築学を学んだ集大成です)





卒業制作展

Graduation Production Exhibition
(初めての卒業生の成果を発表しました)

就職活動支援

「就職ガイダンス」の充実!

テレビ・DVDプレーヤーを活用した就職支援



後援会のご協力（資金提供）を頂き、キャリアセンター内に「テレビ・DVDプレーヤー」を設置しました。

学生が、いつでも自由に「模擬面接」や「企業トップセミナー」、「就職対策講座」などのビデオを視聴することができます。

就職支援課では、今後も1年生からスタートする「進路・就職支援計画」の充実を図つてまいります。



就活手帳 2013



企業情報管理・企業エントリーリスト・
スケジュール表など就職活動記録の内容充実



今年も、後援会のご協力（資金提供）を頂き、「就活手帳2013」を発行することができました。

就職が内定した学生からの「要望・意見」も取り入れ、求人へのアプローチに必要な企業情報の管理やエントリー企業の記録、さらに、就職活動に関するスケジュール表のページ数を増やすなど、充実した内容になっています。



Club Introduction

クラブ紹介

▶▶馬術部



本学馬術部は、愛馬と共に全日本学生馬術大会優勝を目標として日々練習に励んでおります。馬術を通してスポーツマンとしての礼儀やモラルを身につけ、チーム内での競い合いからも技術面・精神面での向上を図ります。

日々の活動は、早朝5時に馬たちの餌やり・馬房掃除などの厩舎作業から始まります。練習では、自分自身はもとより、馬の心理状態や体調などにも気を配りながら人馬のトレーニングに励みます。授業終了後には、再び厩舎へと集まり馬たちのケアを行います。他の競技との大きな違いは、やはり馬と共に競技するスポーツということであり馬たちの体調管理は欠かすことができません。当然、生き物の世話に休日はありませんが、多くの時間を馬と過ごすことで信頼関係を築いていきます。

平成24年度は、6月に行われた中部学生馬術大会において総合優勝を果たし、11月に行われた全日本学生馬術大会の出場権を獲得致しました。全国の舞台では、全日本学生賞典馬場馬術競技大会にて団体6位入賞を果たしました。また、個人では全日本学生馬術女子選手権において第4位入賞を果たしました。

今年度は、後援会の皆様に昨年度以上の好成績をご報告できるよう日々の活動に取り組んで参りますので、今後もご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第48回全日本
学生馬術
女子選手権大会
第4位入賞
吉田なな美
(産業ビジネス学科 3年)



馬術を通してスポーツマンとしての礼儀やモラルを
身につけ、技術面・精神面での向上を図る。

各クラブの主要戦績

平成二十四年度

◆少林寺拳法部	◆第41回少林寺拳法北陸学生大会	◆第55回全日本学生賞典総合馬術大会 (11月1日～7日)
個人	出場	村木 唯人
3種目総合団体	8位	高桑 景太
◆第84回全日本学生馬術選手権大会 (12月8日～9日)	個人	吉田なな美
◆陸上競技部	出場	村木 唯人
◆第86回北信越学生陸上競技対校選手 権大会(5月19日～20日)	ハンマー投	加藤 駿
1500m	1500m	小島 正弘
棒高跳	10000m	田中啓太郎
◆第43回北信越学生陸上競技選手権大会 棒高跳決勝	W	井上 和謙
決勝	7位	脇本 望
ハンマー投	4位	脇本 望
砲丸投決勝	4位	脇本 望
10000m	40m	脇本 望
W	10m	脇本 望
決勝	10m	脇本 望
10000m	49m	脇本 望
W	21m	脇本 望
決勝	49m	脇本 望
2位	10m	脇本 望
53	10m	脇本 望
脇本	71	脇本 望
28	71	脇本 望
◆バレーボール部	◆第43回春季北信越大学バレーボール 選手権大会(5月17日～20日)	◆第60回秋季北信越大学バレーボール 選手権大会(11月1日～4日)
優勝	準優勝	準優勝

200m個人メドレー	2位	河嶋泰佑
1500m自由形	5位	長谷川僚
400m自由形メドレー	7位	400m自由形
400m自由形メドレー	8位	400m自由形
◇第86回日本学生選手権水泳競技大会 (9月2日～4日)	7位	個人メドレー
個人メドレー400m	出場	◇第88回日本学生選手権水泳競技大会 (9月7日～9日)
200mバタフライ	出場	200mバタフライ
400m個人メドレー	出場	河嶋泰佑
200m自由形	出場	出場
◇第67回国民体育大会 (9月30日～10月2日)	出場	竹田誠之介
団体戦	出場	
演技競技	出場	
◇第51回 全日本なぎなた選手権大会 (8月4日～5日)	出場	
演技の部	出場	
女子個人の部	出場	
男子個人の部	出場	
◆柔道部		
◇平成24年度北信越学生柔道優勝大会 (5月20日)	3位	団体
個人	73kg級3位 島田祐介	個人
◇平成24年度全日本学生柔道優勝大会 (6月23日～24日)		団体
(11月30日～12月2日)		出場
個人	100kg超級出場 バヤルサイハン・トウグルドゥル	出場

社会貢献

福井工業大学の
社会貢献活動と、学生の活躍



「未来塾」開講

▼サッカー解説者の

松木安太郎氏が熱弁。

平成二十四年度の「未来塾」講演会は、九月二十二日に金井講堂で開かれました。今回の講師はサッカー元日本代表、サッカー解説者の松木安太郎氏。「人生というゲームの中で」をテーマに、聴講者の皆さんへテレビでもお馴染みの熱い口調で語っていただきました。

「公開講座、 市民ふれあい教室」開講

▼公開講座

前期は六月十三日、「新幹線を支える材料・設計技術」をテーマに、機械工学科が中心となり講座を運営。後期は十一月十四日、産業ビジネス学科が担当し、「大きく変容する日本のビジネス環境」と題した講座を開講いたしました。

▼市民ふれあい教室

平成二十四年五月から、平成二十五年二月にかけて全部で二十三回の地域の皆さま向けの教室を実施。理工学から社会学にいたるまで幅広いテーマで開講しました。英会話や親子プログラミング教室など趣向を凝らした内容も盛り込まれ、多くの方々に「新たな学びの場」をご利用いただきました。



「理科の普及」に 学生も一役

▼「科学実験キャラバン」・

「ロボキヤンプ」・

「サイエンス・パートナーシップ」など

小中学校や高校の児童・生徒に理科・科学技術の面白さを知つていただくためのさまざまな取り組みに、本学学生も多数協力して、実験のお手伝いや子ども達へのサポートなど、あらゆる場面で活躍しています。学生たちも「教える立場」を経験することで、自身も成長できる場となっています。





information

地区懇談会のご案内

平成25年度の地区懇談会は、

全国4会場

福井会場（定期総会）

東海地区（名古屋会場）

関西地区（大阪会場）

北陸地区（高岡会場）

にて開催いたします。

今年度の地区懇談会は、

午前中は、大学後援会・大学同窓会・学園の合同により**講演会・教育報告会**を行ないます。

午後は、例年通りの保護者の皆様と先生方との**個別懇談会**となります。

また、合同で**昼食を兼ねた懇親会**を催し、親睦を深めたいと思います。

平成25年度 定期総会及び 地区懇談会のご案内

地区懇談会は、学生の成績・日常生活・就職などの諸問題について、先生と保護者が個別に話し合える絶好の機会です。
ご都合のよい会場を選んで是非ご出席ください。

① 定期総会

② 福井地区懇談会

③ 全国地区懇談会

参 加 申 込 方 法

「平成25年度 定期総会及び地区懇談会のご案内」を
別便にてお送りいたします。



①投函にてお申し込みの場合

同封の参加申込書を返信用封筒にてお送り下さい。



②電話・メールにてお申し込みの場合

TEL 0776-29-7864

E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp



③ホームページから、MAIL・FAXにてお申し込みの場合

本学ホームページから「参加申込書」をダウンロードの上、メール又はFAXでお送り下さい。

ホームページアドレス

<http://www.fukui-ut.ac.jp/> (TOP >保護者の方のサイトへ)

E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

FAX 0776-29-7891

申込期限:5月10日(金)

定期総会・福井地区懇談会

5/25 土 福井キャンパスにて

13:00～ 平成25年度後援会定期総会

【議題】

- 平成24年度収支決算報告、事業報告
- 平成25年度会計予算、事業計画
- 平成25年度 役員改選
- その他

ご都合でご出席いただけない場合は
「委任状」(別便にて郵送します) をご提出ください。

14:00～ 個別懇談会

ご子息・ご息女の学生生活、学業、部活就職活動等、
どんなことでもご遠慮なくご相談ください。

全国地区懇談会

6/2 日～23 日 全国3会場
(東海・関西・北陸) にて

(詳細は次頁に記載)

10:00～ 教育報告会・講演会

学生のキャンパスライフ、就職情報等を大学教職員がお伝えします。

12:00～ 懇親会

同窓会会員の皆様、保護者の皆様と学園役職員・教職員の懇親会
です。昼食を兼ねてご歓談いただけます。

13:30～ 保護者懇談会

学業・就職・大学生活等お気軽にご相談ください。

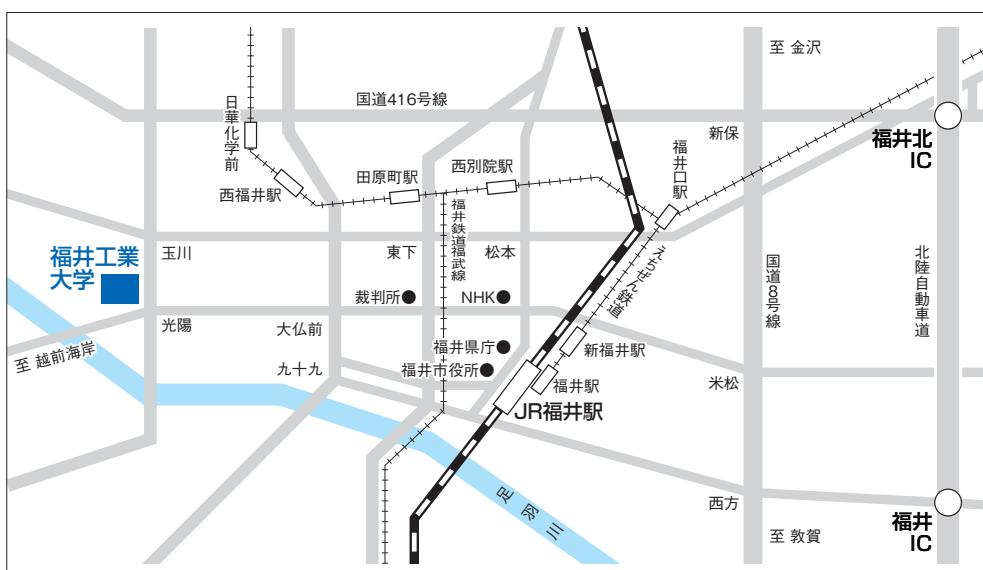
定期総会・地区懇談会 開催案内

地 区	日 程	会 場	電 話 番 号
福 井	5月25日（土） 総会終了後14:00～	福井工業大学 福井市学園3-6-1 http://www.fukui-ut.ac.jp/ut/introduction/ access/index.html	0776-29-7864
東海地区	6月2日（日） 開会10:00～	名古屋ガーデンパレス 愛知県名古屋市中区錦3-11-13 http://www.hotelgp-nagoya.com/access/ index.html	052-957-1022
関西地区	6月9日（日） 開会10:00～	大阪ガーデンパレス 大阪府大阪市淀川区西宮原1-3-35 http://www.hotelgp-osaka.com/access/ index.html	06-6396-6211
北陸地区	6月23日（日） 開会10:00～	高岡地域地場産業センター 富山県高岡市開発本町1-1 http://www.takaokajibasan.or.jp/ center/#access	0766-25-8283

※駐車場に限りがありますので、なるべく公共交通機関等でのご来場にご協力をお願いします。

福 井

福井工業大学



JR「福井駅」
京福バス4番のりば
「学園線」乗車
福井工業大学前下車
(所要時間約10分)
※無料駐車場あり

東海地区

名古屋ガーデンパレス



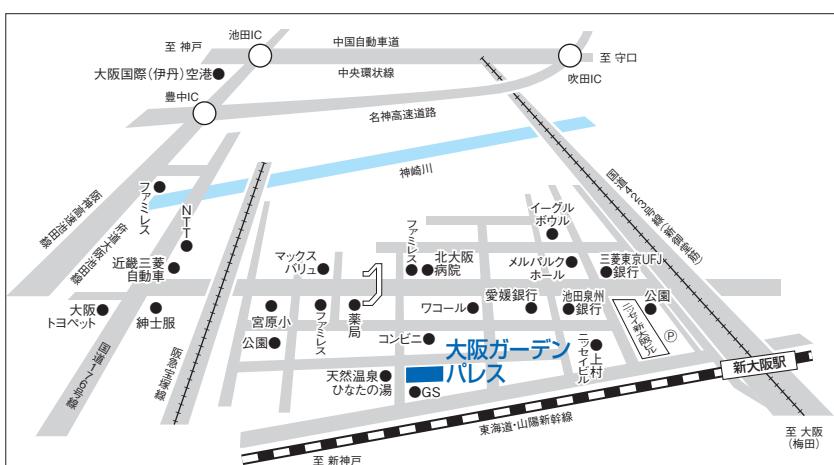
地下鉄東山線「栄駅」

①番出口から直進2つ目の信号左
<徒歩5分>

※駐車場をご利用の場合、正面玄関から
地下へお回り下さい。
収容台数に限りがあります。満車の場合は
近隣駐車場(有料)となります。

関西地区

大阪ガーデンパレス



JR・地下鉄「新大阪駅」より徒歩10分、
シャトルバス利用 約3分

シャトルバス乗り場:

地下鉄御堂筋線「新大阪駅」②号出口左
シャトルバス時刻:
毎時 05、20、35、50分

北陸地区

高岡地域地場産業センター



JR「高岡駅」→

バス④番のりば加越能バス「五十里線」
「富大高岡キャンパス」

二上団地・城光寺線
熊野町バス停下車(約10分)→
徒歩(約3分)
※無料駐車場あり

【平成25年度】 学年暦 (工学部)

前期

平成25年	
4月 1日(月)	学年開始
4月 5日(金)	入学式
4月 6日(土)～12日(金)	全体オリエンテーション 学科別オリエンテーション 前期受講登録ガイダンス Web受講登録講習会 「自然と科学」集中講義
4月 15日(月)	授業開始(全学年)
4月 12日(金)～13日(土)	永平寺参禅研修(1年生学科別)
4月 19日(金)～20日(土)	永平寺参禅研修(1年生学科別)
5月中旬～下旬	五月祭
8月 7日(水)～9月16日(月)	夏季休業
9月 17日(火)～19日(木)	「自然と科学」集中講義
9月 17日(火)～20日(金)	後期受講登録ガイダンス

後期

9月 24日(火)	授業開始
10月 12日(土)～14日(月)	大学祭
10月 15日(火)	大学祭閉会式
12月 26日(木)	
～平成26年1月5日(日)	冬季休業
平成26年	
1月 6日(月)	授業再開
1月中旬	学園成人式(式典)
1月 上旬～1月下旬	卒業研究発表
1月 29日(水)～3月31日(月)	春季休業
3月 15日(土)	学位記授与式
3月 31日(月)	学年終了

(新着任) 平成二十五年四月一日付

機械工学科	環境生命化学科	経営情報学科
斎藤高城	鈴木晉一郎	経営情報学科
藤井塚野	三木隆史	産業ビジネス学科
年博公政	田中真由美	建築生活環境学科
正知郎弘	柏原祐一郎	建築生活環境学科
	吉川一郎	建築生活環境学科
	眞田靖彦	建築生活環境学科
	伊三郎	建築生活環境学科
	斎藤敏明	建築生活環境学科

(退任) 平成二十五年三月三十一日付

機械工学科	環境生命化学科	経営情報学科	建築生活環境学科	電気電子情報工学科	建築生活環境学科	環境生命化学科	建築生活環境学科	建築生活環境学科
斎藤高城	鈴木晉一郎	経営情報学科	建築生活環境学科	吉川一郎	伊三郎	斎藤敏明	建築生活環境学科	建築生活環境学科
藤井塚野	三木隆史	産業ビジネス学科	建築生活環境学科	眞田靖彦	斎藤敏明		建築生活環境学科	建築生活環境学科
年博公政	田中真由美	建築生活環境学科	建築生活環境学科	伊三郎	斎藤敏明		建築生活環境学科	建築生活環境学科
正知郎弘	柏原祐一郎	建築生活環境学科	建築生活環境学科	斎藤敏明			建築生活環境学科	建築生活環境学科
	吉川一郎	建築生活環境学科	建築生活環境学科				建築生活環境学科	建築生活環境学科
	眞田靖彦	建築生活環境学科	建築生活環境学科				建築生活環境学科	建築生活環境学科
	伊三郎	建築生活環境学科	建築生活環境学科				建築生活環境学科	建築生活環境学科
	斎藤敏明	建築生活環境学科	建築生活環境学科				建築生活環境学科	建築生活環境学科

福井工業大学 人事異動

すべてを学生のために

最先端の設備を備え、最先端工学を学ぶステージ。
それぞれの能力・適性・興味に応じて
一人ひとりの人生の可能性を限りなく広げます。